



農業支援員
しが ゆういち
志賀 裕一さん

着任：令和3年4月(2年目)
出身：埼玉県戸田市

—これまでの経歴について教えてください。

東京国際大学を卒業後、東急電鉄に就職し、東横線、田園都市線の駅員として13年間働いていました。

—鉄道マンから農家に転身ですね。

駅員は生活が不規則なこともあり、夫婦で過ごす時間が少なかったため、その現実を見つめなおして転職を決定し、今度は自分でレールを敷きながら、人生を歩もうと思いました。祖父母が夫婦で楽しそうに農作業をしていた幼少期の記憶を思い出し、農家を目指すことにしました。

—なぜ新規就農の地として厚真町を選んだのですか？

関東では、気温の上昇で暑さが厳しいので農業には向かない印象があり、涼しいところで農業をしたいと思っていました。「農業＝北海道」というイメージもあり、

北海道に絞って探しました。新規就農フェアに参加したり、インターネットで就農先を検索をしていたときに厚真町の募集記事を見つけました。実際に研修農場を見学させてもらい、いろいろと話を聞かせていただくうちにこの土地で農業をやりたいと思い厚真町に決めました。

—農家になるために、どんなことをしていますか？

研修農場での農業の基礎学習のほか、米の種まき、田植え、収穫など先輩農家さんの手伝いもしています。農業は「まあいいや」という妥協は通じないし、手薄になると成果につながらない厳しい世界だと感じています。

—厚真町の印象を教えてください。

思っていた以上に夏は暑く、冬は寒くて雪の多さに驚きました。近所の農家さんが雪かきを手伝ってくれたり、メロンや野菜を頂いたり、人の温かさを感じながらご近所付き合いができていて、とても住みやすいです。

—3年後の目標についてどのように考えていますか？

周囲の農家さんに迷惑をかけないように、妥協せず、地域の品質に合ったブロッコリーを出荷し、安定した収益が得られる農家になることが目標です。大型特殊免許を取得した妻と、仲良く農業を営んでいきたいです。将来、いつか生まれてくる息子をプロ野球選手に育てるのも大きな目標の一つです。

地域おこし協力隊

厚真町で活動している地域おこし協力隊をご紹介します！

現在活動している協力隊〈5月末現在〉

農業支援員▷9人 教育魅力化支援員▷3人
起業型▷6人 協働型(旧企業研修型)▷12人



協働型地域おこし協力隊
わたりべ まこ
渡部 真子さん

着任：令和3年6月(2年目)
出身：神奈川県川崎市

—これまでの経歴について教えてください。

大学の教授にホースセラピストを紹介していただいたことがきっかけで、沖縄県の牧場で研修生となり、馬と関わる人生がスタートしました。1年後、七飯町に異動となり、牧場の立ち上げからホーストレッキングなどの観光、ホースセラピー、企業研修や馬の繁殖、育成に携わりました。この職場で、現在、厚真町で林業をされている西埜馬搬の西埜将世さんと出会いました。

—西埜さんとはお知り合いだったのですか。

はい。そのつながりもあったので、牧場を退職して本州に帰る前に西埜さんに会いに行こうと思い、札幌市手稲区の馬搬現場を訪れました。そこには馬がいて大学生や子どももいて、とても楽しくて、林業に関わりたい！やりたい！と思いました。そんなご縁があり、今は西埜馬搬で働いています。

—どのような会社ですか？

重機を使わず、ほとんど手作業で林業をやっている会社で、切った木を馬で搬出しています。トラックや重機の通り道を作るための伐採が不要なので、山や森を傷めることなく木を切り出すことができます。馬搬材ならではの価値を生み出すことにも取り組んでいます。

—仕事の内容は？

いろいろな仕事をしています。主にハスカップ事業を任されていて、ハスカップの栽培・販売をしています。馬搬現場へ行き、木を切る作業や切った木を森から搬出する作業のほか、草刈り作業も行っています。

—厚真町の印象を教えてください。

温かくて、いい人が多い印象です。同年代の子を持つ親がいることも心強いです。居心地がよく、住みやすい町です。

—3年後の目標は？

今の仕事を1人でもできるように成長することです。馬と暮らしながら、馬と一緒にできる仕事を広げていくことが目標です。林業や農業のほかに木工にも挑戦したいです。森には、捨てるにはもったいない木がたくさんあるので、それらを木工品として活用し、価値を生み出していきたいです。